

二本松青年海外協力隊訓練所

ADATARA

あ だ た ら



タンザニアにて(平成21年度 第3次隊 穴澤さん)

特集 TICAD 応援企画

Contents

アフリカ語り隊!

P3 イベントレポート・VOICE

P4 現地レポート「From ヨルダン」

アフリカ語り隊!

6月1日から3日の日程で、TICADV（※第5回アフリカ開発会議。詳しくは下記参照）が横浜で開催されます。そこで今回は、まだまだ私たちにとって遠い存在である“アフリカ”を舞台に活動し、帰国後も福島で活躍中の3名の協力隊経験者の方々をご紹介します。アフリカの人々の暮らしや、2年間の活動から感じたこと、学んだことなどについてお話をうかがいました。

※TICADとは?...TICADとは、Tokyo International Conference on African Development(アフリカ開発会議)の略であり、アフリカの開発をテーマとする国際会議です。1993年以降、日本政府が主導し、国連、国連開発計画(UNDP)及び世界銀行等と共同で開催しています。5年に1回の首脳級会合に加えて、閣僚級会合等を開催しており、2008年5月には、横浜において4回目となるTICAD IV(第四回アフリカ開発会議)を開催しました。(出典:外務省ホームページ)

アフリカ 基本情報



- 国の数: 54カ国
日本が承認する国の数(195カ国)の約4分の1
- 面積: 約3000万km²
日本の国土面積の約90倍
- 人口: 約9.8億人
日本(約1.2億人)の約8倍



福島県 商工労働部 商工総務課

あなざわ
穴澤ともよさん

- 平成21年度3次隊 タンザニア
- 職種: 村落開発普及員 ●出身: 福島市

—タンザニアではどのような活動をされたのですか?

県庁の地域開発課・福祉課と一緒に活動したところ、に配属になり、地域開発オフィサーとして活動しました。主に力をいれていたのは孤児院と連携した活動です。子供の権利や体罰に関わる活動、エイズ対策などに携わりました。

—タンザニアの方たちの印象はいかがですか?

タンザニアの人たちは陽気な音楽が好きですね。バスの中でも大音量で流れているので、最初はちょっと迷惑だとも思っていたのですが、帰国してみると、日本のバスや電車の中がとても静かなので、そわそわしていました。タンザニアの陽気さや賑やかさが懐かしいです。

—現地での食事について教えてください。

主食はお米やウガリ(とうもろこしの粉をお湯で練ったもの)で、特別な日には鶏肉とスパイスの入った味付けごはんのようなものを食べます。鳥肉は牛肉に比べ高価で、普段はあまり食べられません。また、お茶のことをチャイと呼び、チャイの時間を大切にします。カップにたっぷり作り味わいます。

—タンザニアで大変だと感じたことは?

日本にいた時と違い、毎日何かしらあり、怒ったり笑ったり驚いたり、感情の起伏がありましたね。停電や断水があったので、水を汲んでいて約束の時間に行けない、うまく火がおこせず予定していた時間にご飯が食べられないということもありました。時間を決めて、これをやろう!というのが難しいなと感じました。

—最後にメッセージをお願いします!

“タンザニア”と言っても、行く地域によって表情が違います。首都は近代的で高層ビルが建ち並び、沿岸沿いや対岸のザンジバル島ではイスラム文化を感じることが出来ます。北部はキリマンジャロや国立公園などの自然に恵まれ観光地になっています。その一方で、西部はまだ難民キャンプがあり内戦の爪痕が残っていますし、任地のあった南部はお茶の産地になっています。自分に身近なことではないと、ニュースなどで流れる悪い面ばかりに注目してしまうけれど、この機会に日本とアフリカの繋がりについて考えてもらえるといいかなと思います。意外な発見があるかもしれません。



現地で啓発活動を行う穴澤さん。



NPO法人 芋麻倶楽部(地域おこし協力隊)

いいた だいきち
飯田大輔さん

- 平成21年度4次隊 ニジェール
- 職種: 村落開発普及員 ●出身: 静岡県浜松市

—協力隊に参加しようとしたきっかけは?

大阪で日々忙しく仕事に追われ生活している中で、自分の生き方を見直すようになりました。国内の有機農家でのボランティア活動を通し、家族や地域コミュニティの強さ、助け合いの精神、お金やモノに頼りすぎることなく、自然と共に暮らすことに憧れがありました。

—ニジェールではどのような活動をしていましたか?

地方の農業局に配属となり、唐辛子を使った自然農薬の講習会、小学校での学校菜園、耕地内休閒システムの普及などに取り組みました。農業の専門ではなかったのですが、先輩隊員やプロジェクトで入っていたJICAの方からアドバイスをもらい、現地の農民が困ったことがあればサポートしていました。

—ニジェールと言えばコレ!

他のアフリカ諸国の都市部の繁栄や観光資源の豊富さに比べ、ニジェールは何もない国でした。しかし、現地語のハウサ語での1人1人とする挨拶がとても長かったり、イスラム文化のひとつである犠牲祭で羊を解体し近所の人を招いて食べたりすることがニジェールらしさと言えるかもしれません。

—帰国後、なぜ昭和村に来ることに?

赴任して1年経った頃、政情不安のためにケニアに振替派遣となりました。どちらの国も期間の短さから十分な活動ができずに悔いが残り、将来は田舎に住みたいと思っていたこともあり、日本の農村で引き続き地域おこしをしたいと考えたからです。

—最後にメッセージをお願いします!

日本にとってアフリカは縁遠い世界で、水がない、電気がない、貧しいなどネガティブなイメージも強いです。しかし、自分はすっかりなじみの深い存在になりました。知らない人同士でもすぐに話しかけて打ち解ける気さくさ、いつも笑い合っている陽気な人柄、過酷な状況でも音を上げない我慢強さ。向こうで2年間過ごし、アフリカの人たちのいいところをいっぱい見つけました。日本に帰国した今でも自分は彼らのことを隣人と思っているし、アフリカと心の中で繋がってほしいですね。そんな風に思う人が少しでも増えることを願います。



現在は、昭和村で地域おこし協力隊として活躍中!(左側が飯田さん)



復興庁 福島復興局

わたなべ つぎお
渡邊次男さん

- 昭和57年度2次隊 チュニジア
- 職種: 自動車整備 ●出身: 二本松市

—チュニジアへ行くことになったときはどのようなお気持ちでしたか?

アフリカに行きたいというよりは、チュニジアでの要請が、自分がやりたいことにぴったり合っていたので希望していました。しかし、実際にはどこにある国かも分かりませんでした。当時の日本ではほとんど情報を得ることもできず、耳にした情報と言えば、アフリカの国名で最後に“ア”がつく国は危ない、という噂だけでした。チュニジアもそのひとつでしたし、隣国ではクーデターがあったこともあり、正直、渡航するのはちょっと怖かったです。

—派遣先の様子を教えてください。

国立自動車運輸職業訓練所に派遣されました。当時の現地の人たちの技術力は、日本と比べるとやはり低かったのですが、今はむしろ逆転していると思います。日本の自動車技術は物凄いです。自動車整備のサバイバルの整備はチュニジアを含め、アフリカの国々の方が上だと思います。

—どのようなことに苦労しましたか?

当時は政情も不安定で、1984年に食糧暴動が起き、パンの値段が倍になってしまいました。職場である学校は国立だったため、窓ガラスも割られ、授業もできない状態でした。自分のやりたい活動ができ、同僚とも良い関係ができていた時でしたので辛い思いをしました。

—現在のお仕事“復興支援専門員”について教えてください。

福島復興局に所属し、復興局で採用した支援員と被災した県内の自治体への紹介マッチングを行うコーディネーター業務を行っています。

—当時の経験が今の生活やお仕事にどう活かしていますか?

協力隊や調整員を含めアフリカの国々を見てきましたが、もの大切さについてよく考えます。部品一個を交換すれば使えるようなものを捨ててしまっていますよね。あちらの国々はあるものでできることをしたり、ものを大切に使います。

それから、復興の仕事と関わることになったのは協力隊経験がまさに活かしていると思います。協力隊はモノではなくヒトを扱って来ています。復興の現場で求められるのは人と人の付き合いです。こうい



活動先での授業の様子。

EVENT REPORT

平成25年度JICA ボランティア春募集説明会

イベント
レポート1



エジプト語の模擬授業を体験中。

平成25年度JICAボランティア春募集に合わせ、3月から4月にかけて、県内各地で募集説明会が開催されました。

特に、4月21日(日)のJICA二本松でのボランティア一日体験入隊には、季節外れの雪の中ではありませんでしたが、東京からの多数の参加者を含む、約50名の参加がありました。

「合格への道!」と題した講義では、受験する上での心得、準備等について北野所長をはじめ、JICA二本松スタッフよりアドバイスがあり、参加者は真剣な表情で話に耳を傾けました。また、エジプト語の語学クラスの模擬授業、エジプトで活動中隊員とのテレビ電話中継、個別相談などを通して、応募への意欲を高めたようでした。

全国から集結! 「ふくしま応援ツアー」

イベント
レポート2



馬場浪江町長の講話に耳を傾ける参加者たち。

昨年度のボランティア同窓会から1年。好評につき、今年もふくしま青年海外協力隊の会主催のもと、3月23日、24日の一泊二日の日程で「ふくしま応援ツアー」が開催され、全国から約90名の参加者が福島を訪れました。

1日目は福島市内の果樹園を視察ののち、会場をJICA二本松に移して、協力隊OGで(公財)福島県国際交流協会に勤務されている幕田順子さん、そして今なお住民の避難生活が続く浪江町の馬場有町長の講話がありました。それぞれの立場においての震災時の対応などについてお話をいただきました。

2日目は福島県内の協力隊経験者がガイドとなり、被災地の視察(南相馬市小高区)が行われ、参加者からは、目で見えた現状を周りに伝えていきたいとの声が聞かれました。

VOICE

ボイス



農家(二本松市)
たかはし あきお
高橋 秋男さん タカさん ご夫妻

このコーナーでは日頃よりJICA二本松を応援してくださっている県内の皆様にインタビューし、JICAボランティアとのエピソードや期待・エールをうかがっていきます。第一回目の今回は、候補者が訓練の一環で行っている地域での「所外活動」の活動先、農家の高橋秋男さんにお話をうかがいます。

一こちらに活動で訪れた候補者はどのくらいいるのですか?

平成20年度1次隊から毎回5~7名程度の方に来ていただいているのもう100名以上になりますね。

一候補者はどのような活動をしていますか?

今だときゅうりのポットに土入れを行います。夏になれば収穫や出荷のお手伝い、草むしりなどを行います。候補者の中には、全く畑仕事

をしたことがない方もいるので、楽しみながら活動してくれています。

一受けてみていかがですか?

受け入れる前からJICA二本松は知っていたけれど、正直、何をしているところなのか分かりませんでした。今ではとにかく楽しみながら候補者と活動しています。候補者を受け入れたことで、私自身外国に興味を持つようになり、外国を紹介するテレビ番組も身近なものとして観るようになりました。今、行ってみたいのはアフリカの国です。

一秋男さんは、候補者の皆さんにあることを教えているとか?

私の家に活動に来た方たちには、農業だけでなく「ごっつおさま(ごちそうさま)」のような二本松の言葉も教えています。というのも、候補者のみなさんが異国の言葉を訓練中であるよう

に、その土地で使われている言葉を大切にしてほしい、愛着心を持って欲しいという思いがあります。活動が終わる頃にはみなさん上手になって帰っていきますよ。外国へ行ってもその土地の言葉でその土地に馴染んでほしいです。

一ここで秋男さんと活動をした候補者が今まさに世界へ羽ばたこうとしています。一言エールをお願いします!

日本は先進国です。その日本を代表して外国へ行くのですから、みなさん実力を大いに発揮してください。



平成25年度1次隊の候補者のみなさんと。

とても気さくで面倒見が良い秋男さん。ご自宅には日本中、世界中の協力隊員から届いた手紙がたくさんあり「候補者のお父さん」といった雰囲気でした。ありがとうございました!

JICA ボランティア

現地レポート from Jordan

福島県出身



青年海外協力隊
おがわ あきつく
小川 晃世 さん
平成23年度2次隊
出身地：会津若松市
派遣国：ヨルダン
職種：美術

ヨルダンは中東にある小国で、人口は約630万人。周りを、シリアやイスラエル(パレスチナ人は自分たちの故郷として”ファラステーン”と呼びます)、イラク、サウジアラビアなどに囲まれているため、多くのパレスチナやシリアからの難民を抱えています。



▲UNRWAイルビッドエリアの芸術分野ビッグイベント「人権展」の時の写真。美術作品の展示と、生徒たちによる劇やスピーチ、合唱などのパフォーマンスがある。

日本と違い、海が最南端のアカバという街にしかなく、魚介類が大変高価で、



▲Institut Francaisとヨルダンの交流50周年を記念して今年開かれている様々なアートイベントのうちの一つ、5つ星ホテル「Le Meridien Amman」を会場として開かれた写真展。

日本の魚介料理がとても恋しくなります。

さて、私はヨルダン最北の街・イルビッドにあるUNRWA(※)という国連系のパレスチナ人支援のための組織が運営する学校に勤務しており、そこで美術を教える事の難しさを日々感じております。



▲スウェーデン大使館主催、イラク王室資金協力他で、幾つかの国で同時に展開されている音楽・ダンス教育イベント。そのヨルダン部門発表会。

男女でまず学校の状態が全く異なり、女子の方は美術が好きで取り組み状況も概ね良いのですが、男子の方

は、どうしても美術にあまり興味は抱きづらいのでしょうか。他に、生活態度なども、イスラム教という宗教の影響もあり、男女で大分異なります。

ヨーロッパやアジア、アメリカ、アフリカなどからも多くの人が入ってきているので、国際色は豊かなのですが、アジア人に対する差別があるのも問題として感じています。



▲王族が支援する画家の個展の写真。説明を受けている写真左側の女性が”Princess Rahma bint El Hassan”さんです。

確かに問題も色々を抱えてはおりますが、逆に、ヨルダンという国を超えて、国際的な美術活動や、王室関係の事業にも一部関わらせてもらうなど、貴重な機会に恵まれていると思っております。

後半年の任期、頑張っていきたいと思っております。

※UNRWA…United Nations Relief and Works Agency for Palestine Refugees in the Near East (国連パレスチナ難民救済事業機関)



福島に
ゆかりのある

JICAボランティア

平成25年度1次隊(2013年6月または7月出発)

①出身地 ②派遣予定国 ③職種



青年海外協力隊
あんざい しほ
安齋 志保さん
①静岡県(父が福島出身)
②スリランカ
③ソーシャルワーカー

学生の頃から協力隊に参加したいと思っていました。任国のスリランカで、たくさんの人と交流し、文化を吸収しながら、自分の経験や知識を十分に活かして少しでもお役に立つことができるようがんばります。



青年海外協力隊
かとう なおき
加藤 直樹さん
①福島市
②コスタリカ
③野球

中学生の頃に協力隊を志したことを今でも覚えています。大好きな野球で協力隊に参加できることに感謝です。野球を通じた活動が任国にたくさん笑顔を生み出せるよう全力投球で頑張ってきたと思います!



青年海外協力隊
さわしし さゆき
澤橋 絹代さん
①青森県(福島大学出身)
②バングラデシュ
③土木

学生時代のベトナムの地下水汚染問題をテーマにした卒業研究で、海外の環境問題に携わりたいという思いが強くなりました。任国では多くのことを伝え、そして共に学び、任国の課題が少しでも改善できるよう努めます。



青年海外協力隊
とよた やすひろ
豊田 泰洋さん
①田村市
②プータン
③家畜飼育

任国には豊富な自然、多様な文化そして新しい出会いがあります。これまでの経験でどこまで任国の貢献ができるかわかりませんが、誠心誠意がんばってきます。また今後の人生のターニングポイントとなるような2年間にしたいと思います。



青年海外協力隊
なつめ やすこ
夏目 泰子さん
①茨城県(福島大学出身)
②ニカラグア
③小学校教諭

大学の授業で、二本松訓練所に見学に行きました。そのときに、協力隊で活動された方の話を聞いたことが心に残り、わたしもやってみたいと思うようになりました。現地の方と一緒に問題を考え、お互いに満足する活動がしたいです。



青年海外協力隊
にいた あやか
新田 絢香さん
①郡山市
②ブルキナファソ
③村落開発普及員

みなさん、こんにちは。私は砂漠化が進む地で、植林やゴミ削減等の活動します。震災時はアフリカからもたくさんの励ましの言葉をいただきました。新たな出会いを楽しみ、海外と日本、そして福島との架け橋になれるよう情報発信していきたいです。



青年海外協力隊
まつの よしえ
松野 由恵さん
①柳津町
②東ティモール
③義肢装具

以前からの夢である海外での活動へ向け、現在、二本松で心技体の訓練に励んでいます。支えてくれる家族をはじめ、応援してくれる方々への感謝の気持ちを常に忘れず、現地では私にできる最大限の活動をしてきたいと思っています。



青年海外協力隊
わたなべ せいじろう
渡辺 誠太郎さん
①東京都(父が福島出身)
②ナミビア
③食用作物

私は中学生の時から青年海外協力隊になりたいと志していました。そして、今ようやくそのスタート地点に立とうとしていることに感無量です。二本松訓練所で誠心誠意頑張り、派遣国に旅立ちたいと思います。

福島県出身 ボランティア

2013年4月30日現在 合計派遣中34名/累計645名

青年海外協力隊			日系社会青年ボランティア		
派遣中	30	累計 585	派遣中	0	累計 8
シニア海外ボランティア			日系社会シニアボランティア		
派遣中	3	累計 47	派遣中	1	累計 5



着任のお知らせ



市民参加協力調整員
永井 涼
ながい りょう

イエメン派遣へ向けて二本松訓練所で訓練を受けた時に「住んでみたい」と思うくらい好きになった土地ですが、念願叶ってこの度福島に戻れることになり楽しみにしております。東日本大震災発生からは中高生への学習支援プロジェクトに携わって参りましたが二本松でも復興に向けた事業、また「出前講座」・「教師海外研修」等の各種プログラムを担当していきますのでどうぞよろしくお願いいたします。



国内協力員
大内 伸代
おおうち のぶよ

こんにちは。国内協力員として3月18日からJICA二本松で勤務することになりました。募集説明会やJICAボランティア出発及び帰国時の表敬訪問などを担当します。一人でも多くの福島県民の皆さんに、JICAボランティア事業を知って頂けるよう広報業務にも頑張りたいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。



国内協力員
渡邊 亮
わたなべ りょう

初めて二本松を訪れたのは、協力隊候補者として派遣前訓練を受けた5年前。当時はまさか、帰国後に戻ってくる事ができることは想像すらしていませんでした。太陽の光輝く安達太良山の景色をはじめ、四季折々の情景を日々楽しむことができる二本松において、世界を翔る協力隊と、それを全面から支えていただける福島県の皆様と、夢の挑戦と達成に向けた活動に取り組んでいきたいと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。



国内協力員
芳島 昭一
よしじま しろういち

青年海外協力隊候補生として、平成9年9月からの79日間を過ごした二本松に約16年ぶりに戻ってきました。今回はスタッフとして、これから世界中に派遣されるJICAボランティア候補者たちに対する語学訓練等を担当させて頂いています。自然いっぱい美しい福島県での生活も楽しみながら、週末には被災地等でのボランティアもさせて頂きたいと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。

5月~7月 イベントカレンダー

6月

- 18日 平成25年度1次隊派遣前訓練 修了式
- 22日 平成24年度教師海外研修(セネガル派遣)報告会
- 場所 コラッセふくしま(5F研修室A)
- 時間 13:00~15:00

ラジオ番組のご案内

●FM Mot.Com
「世界も、自分も、変えるラジオ」
毎週木曜 13:00~13:30

4月4日から始まった新レギュラー番組「世界も、自分も、変えるラジオ」は二本松訓練所で訓練中の候補者らが独自に制作する番組。協力隊が活動する開発途上国の話題や日本全国各地から集まった隊員たちの熱い思いや将来の夢、そして訓練所内での生活の様子を市民にお伝えする内容となっています。

●ふくしまFM 番組ブログ、Facebookも随時更新中
「キミノチカラ、海を越えて ~青年海外協力隊の道~」
毎週土曜 8:30~8:55

キミノチカラ、海を越えて ~青年海外協力隊の道~

JICAボランティアとして世界各地で活躍された県内在住の方々をゲストに迎え、参加の動機や派遣国での様子、ボランティア経験を帰国後どのように活かしているのかなど、現地の音楽を交えながらお送りします。

アクセス

独立行政法人国際協力機構
二本松青年海外協力隊訓練所
〒964-8558 福島県二本松市永田字長坂4-2
Tel: 0243-24-3200 Fax: 0243-24-3214

●本誌に関するお問合わせ
JICA編集デスク 担当: 八巻(やまき) Tel: 024-524-1315 Fax: 024-624-8308
〒960-8103 福島市舟場町2-1 (公財)福島県国際交流協会内